

## 平成 30 年度下半期 白血病・リンパ腫委員会活動報告

### (1) 稀な白血病に関する調査

学会での研究承認を得た上で、学会登録データ 2006 年～2013 年診断 ALL 中の不明症例及び稀な白血病で、疾患登録委員会を通じて、PTOSH に依頼したところ 186 例が抽出された。2015 年 9 月に二次調査も全て終了し、委員で分担しデータを解析した。

このうち tAL (治療関連白血病) については今村委員が学会発表を行い、International Journal of Hematology (IJH) に publish された。

・Imamura T, Taga T, Takagi M, Kawasaki H, Koh K, Taki T, Adachi S, Manabe A, Ishida Y; Leukemia/Lymphoma Committee; Japanese Society of Pediatric Hematology Oncology (JSPHO). Nationwide survey of therapy-related leukemia in childhood in Japan. Int J Hematol. 2018 Mar 24. doi: 10.1007/s12185-018-2439-x. [Epub ahead of print]

顆粒球肉腫については多賀委員が 2016 年の小児血液・がん学会で発表、論文は IJH に投稿し、publish された。

・Taga T, Imamura T, Nakashima K, Maeda N, Watanabe A, Miyajima Y, Sakaguchi S, Sano H, Hasegawa D, Kawasaki H, Adachi S, Takagi M, Koh K, Manabe A, Taki T, Ishida Y. : Clinical characteristics of pediatric patients with myeloid sarcoma without bone marrow involvement in Japan. Int J Hematol. 2018 Oct;108(4):438-442.

NK/Myeloid leukemia については高木委員が解析中であり、論文投稿の準備を行っている。

### (2) 血液がんの case-control study と CLIC について

浦山委員を中心とする研究に学会の白血病・リンパ腫委員会として協力していくことが確認された。まず聖路加で pilot study が行われ、現在関東の TCCSG を中心とする施設に広げられて研究が行われている。今後は全国規模の研究に拡大していく方針。治療研究ではない、このような疫学研究こそ JCCG との役割分担で学会が担うべき任務と合意された。2018 年の SIOP 開催前の 11 月 12 日 (月) に東京で浦山委員が主催するシンポジウムが開催され、委員会委員も参加した。

以上

文責：康 勝好